産業道路の計畫に就て

貴族院議員　佐竹三吾

産業道路補助費の豫算は田中内閣の産業立國政策の片鱗として第五十四議會に提案せられたるも議會解散の爲に成立するに至らず、依て再び第五十六議會に同一豫算を提出したるに、幸にして兩院を通過し、昭和四年度に於て愈々二百萬圓の補助費が各府縣に分配せらるゝこととなつたのは兎に角道路改良史の一頁を飾るに足ることと申して差支あるまい。

産業道路と云ふ名稱は耳新らしい詞であるが要するに重要府縣道又は指定府縣道のことであつて、産業立國とか云ふ旗印同樣人の注意を喚起する標語として都合の好いに止まり考へて見れば意味のない詞である。何れの道路も産業の發達助成に關係のないものはない、所謂軍事國道と云ひ又は各府縣の縣廳所在地を結び付ける政治的意味を多分に持つ普通國道と云ひ、何れも産業の發達に密接緊要の關係がある、否な産業上に及ぼす影響の重大なることに於ては寧ろ指定府縣道に優るとも劣らざるものがあるから之等の國道も立派な産業道路である、故に産業道路を府縣道に限ることは全く無意味である。然し斯る新規の名稱を付けたのは恐く名は實の賓なりとの諺もあるから、從來

の名稱では人心を新にすることが出來ず、何處に改良の重點を置くかハッキリしない點もあるので、特に產業の振興に中心を置くことを示さんとしたものであろう。元來政黨の旗印は直截簡明に直に人の肺府を突く樣な項目を掲げて大衆に呼びかけることが必要であつてそれには目先きを新にしなければならぬからそう云ふ意味に於て產業道路と云ふ詞がなんとなく響の好い名前に聞える。

產業道路の改修計畫は政府の說明に依れば重要府縣道中更に產業上重要性あるもの千五百里を選び十年間に改修を完了せむとするに在て、改修の程度目標は自動車の交通を滑にせむとするにある樣である。而して其費用總額一億八千萬圓、その內國庫の負擔額六千萬圓卽總額の三分の一である、從て年々平均六百萬圓の豫算を取らなければ到底十年間に完成を見ること困難である。

然るに今回成立したる豫算は年額二百萬圓に過ぎず之を平均額六百萬圓に比すれば三分の一であるから今後大に年割額を增加するに非されば十年計畫は始めから實行不可能で結局三十年計畫に終るのでないかを惧れる。

加之政府はなぜ此際六千萬圓十年計畫の繼續費を議會に提案しなかつたのであるか、一年限りの豫算では何時削減又は廢止せらるるか甚不安であるのみならず、事業の性質上一旦着手した以上は中途に於て打切又は變更を不利とするから繼續費とするのが當然である。或は補助費であつて且企業主體が府縣であるから府縣に於て繼續費の豫算を組むのは當然であろうか國に於ては府縣の仕事に追隨するの外ないから一年限りの豫算より組み樣がないと云ふ者があるかも知れぬが、之は屁理窟であつて事業の性質から考へても譬へ補助費であろうが繼續費とするのを當然とする。

次に最も大切のことで今回の豫算にも政府の計畫にも未だ確定しないものがある、それは事業の內容目的たる產業道路網である、苟も政府が十年計畫を立つる以上は單に改修すべき道路の延長とか一里當りの工費の單價を定むる丈では足りない、必ずや何處の何ん區間の道路を改修することが定まつて居なければならぬ。然るに實際內務省には未だ成案が出來て居ない樣である、豫算が取れたからこれから各府縣より材料を集めて決定しようと云ふ風に見える、四年度の計畫已に然りとすれば、五年度以降の計畫に至ては全く白紙狀態であると見ねばならぬ、卽ち其時々の當局者の頭で取捨選擇を爲す譯である、當局者には便利かも知れぬ、政黨には黨勢擴張上好都合かも知れぬ然し計畫としては甚だ宜しくない、當局者は須く先づ以て產業道路網の調査を完了し、適當なる計畫を樹立し然る後に一般財政計畫を考慮し十年計畫なり五年計畫なりの豫算を定むべきである、之をなさずして年々の工事計畫を樹つる時は所謂其日暮し又は行き當り主義に陷ることは明かである。

果せる哉新聞の報導に依れば各府縣より產業道路の認定又は其補助費の支給を出願せるもの際限なく、已に豫算の數倍の多きに上り當局者は取捨に困惑を感じて居るとのことである、之はさもあるべきことと思ふ、計畫なしに豫算丈を取つた報ゐである。斯くなつては、當局者は宜しく嚴正公平なる態度を以て選擇の適正を誤らざらむことを望む、近時政黨の弊地方の隅々に至る迄侵潤し、黨利の爲に公益を犧牲にすることを平氣で敢行する風潮がある、大に注意警戒すべき處である。

政府は早速產業道路網を制定すべきである、又今年度に於て補助を爲すべき路線を決定することは焦眉の急である、それには各方面の意見を受け容れ國家百年の計を誤らざる用意として交通會議

又は道路會議を設くることは最も必要と思ふ、秋田政務次官は過ぐる議會に於て年度が改まればすぐにでも權威ある交通會議設置の意見を相當强い自信を以て演說したことは吾人の記臆に尙新なる處であるから恐く急速實現せらるることであろうと思ふが、その場合に委員の組織に付て特に注意せられたきことは主として民間の實際家及學者經驗家の內から委員を擧け役人の委員を餘り多く作らざることである、從來往々にして御用委員を以て過半數となさむが爲に役人を多くし委員會は結局政府の御都合主義に迎合し一向有益なる機能を發揮せざることがあるから斯る弊に陷ることとなき樣に希望する、委員會の性質は諮問機關であるから譬へ政府に反對の意見が多數であつても、政府に於て確信があるならば其意見に反して政府案を實行しても何等差支ないから委員會の意見に餘り拘束さるる必要も理由もない筈であるから始めから御用委員の委員會たらしめざる樣組織することを希望する殊に今後に於ける鐵道の建設は自動車の發達と調和緩急を計ることに重を置くべきであるから鐵道省との聯絡は是非とも交通委員會に於て充分計ることに考慮せられたいと思ふ。

◇××――――――――××◇